

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016. 3. 22

言語社会専攻長
日本語・日本文化専攻長 殿
To Dean of Studies in Language and Society
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座 教授
氏名 Name	竹 村 景 子
専門分野 Academic Field	スワヒリ語学・文学・文化論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	(1) スワヒリ語のザンジバル島北部変種の記述研究 (2) サイド・アフメド・モハメドの短編集の研究および翻訳
<p>(1) については、今年度は科学研究費補助金を獲得できなかったが、これまでに行なった科研費による調査のデータを洗い直し、特に、ザンジバル島北部県北部 A 郡のチャアニ村における be 動詞を使った表現についての分析を進めた。チャアニ村で話されている「チャアニ変種」の be 動詞を使った表現は、いわゆる標準スワヒリ語での表現と大きく異なっている。もともと、両者の過去時制表現に大きな違いが存在しているが、be 動詞を使った表現ではそれがさらに顕著であり、下記の例のように標準語しか理解しない者には分析が困難な形となっている（太字部分が「私は～だった」の意味である）。</p> <p><例文：3 年前、私は学生だった> (*スペースの関係上、グロス省略)</p> <p>(チャアニ変種) Miyaka mitatu iyopita nyevu mwanafuzi. (標準語) Miaka mitatu iliyopita nilikuwa mwanafunzi.</p> <p>また、チャアニ村をはじめとして近隣の村々はザンジバル島の北西に位置するトゥンバトゥ島出身者によって建設されたと言われているが、婚姻のためにトゥンバトゥ島からチャアニ村に移り住んだ女性を調査協力者としてデータを収集したところ、トゥンバトゥ島での be 動詞を使った表現は、チャアニ変種とは若干異なることもわかっている。このことに関してはまだ調査内容が不十分なため、今年度に何らかの成果を発表することはできなかった。今後、詳しい記述調査を行ないたい。なお、チャアニ変種の be 動詞を使った表現については、研究室雑誌『スワヒリ&アフリカ研究』にスワヒリ語で執筆して報告している。</p> <p>(2) については、これまでに発表した作品全てをスワヒリ語で執筆しているタンザニア出身の作家サイド・アフメド・モハメドの短編集 Sadiki Ukipenda の日本語訳を試みた。すでに「前書き」の部分の下訳は発表している（『アフリカ文学研究会会報』第 31 号, pp.6-9, 2003）が、この部分も含めてよりわかりやすい日本語に訳すべく検討を重ねた。今年度中に公表はできなかったが、来年度以降も訳の検討を続け、サイド氏に翻訳の許可を得ていずれ公表したいと考えている。</p>	